

令和7年度 授業改善推進プラン6年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	2学期	3学期
国語	①話の中心を捉えて、内容を理解することに課題がある。 ②文章全体の構成を捉えることに課題がある。	①話の内容を要約する活動を意図的に設定し、話の中心を捉える力を伸ばす指導を行う。 ②文章の構成を捉えるために、文章構成図を作成する活動を授業に取り入れる。		
社会	①ワークテスト中の「思考力・判断力・表現力を問う問題」の誤答率が高い。	①授業のまとめの学習過程で、その日の授業のまとめを自分の言葉で作文(または穴埋め)させる方法を取り入れていく。		
算数	①「問題文を読み、整理する力」に課題があるため支援が必要である。 ②前学年までの学習内容の定着率が二極化している。	①授業の中で「わかっていること」「求めること」を色分けするなどをし、文章を正しく読み取る力を高める。 ②プリントやタブレットを活用し、既習内容を中心に復習をする時間を設ける。		
理科	①学習した内容が、知識として定着していない可能性がある。	①論理的に思考したことを自分で言語化できるように考察の指導を丁寧に行う。また、得た学びを汎用できるよう、他の実験方法で確かめた場合を動画で確認したり問題形式で解いたりする。		
音楽	①思いや意図を持つこと、それが表現に繋がる部分に課題がある。 ②音楽を形づくっている要素を聴きとり言葉で表現する、音楽を聴き感じたことを表現することに課題がある。	①楽曲の背景を理解しさらに自分の思いをもつことや、それを周りと共有する活動、楽譜を読み取り分析する活動を増やし、表現の助けになるようにする。 ②周りと話したり発言したりして共有する。音楽を形づくっている要素の言葉の選択肢を示す。		
図画工作	①アイデア豊かな児童が多いが、発想することに苦手意識がある児童も多いので個別の支援が必要である。 ②用具や材料の扱いや、技術面でまだ粗さがありじっくり取り組む姿勢が必要である	①全体で活動やアイデアをお互いに見合う機会も設け、発想や視野を広げるきっかけとする。 ②用具や材料の扱いや、技術面の指導を、全体で確認する他に児童自身が考える場も設ける。技術面で課題がある児童には具体的な視点などを伝え、個別に支援する。		
家庭	①実生活と学習内容との乖離が見られることがあるため結びつけるための働きかけが必要である。	①学習内容と実生活との関連性を意識しながら学習できるように「実生活のこういった場面で生かすことができるか」を常に考えさせる働きかけをする。		
体育	①運動技能の児童間の差が大きくなってきている。 ②「投の運動」、「跳の運動」を苦手としている児童が多い。 (体力テストより)	①児童同士での教え合いを取り入れることで、苦手な児童の底上げと得意な児童の思考の高まりを目指す。 ②体づくり運動で投、跳の運動の時間を重点的に設定していく。その他の単元でも、感覚作りや補助運動の活動内容に積極的に取り入れていく。		
外国語	①既習事項(単語や表現)が定着せずプレゼンテーションを行う場において難しさを感じる児童が多く見られるため、支援が必要である。	①既習事項がいつでも目に入るよう、掲示物を用意する。また、発表を伴う授業の際に掲示物を黒板に貼り出し、プレゼンテーションの準備をする際に表現を選べるようにする。		
道徳	①実生活になかなかつながっていない。	①朝、帰りの会などを活用して、道徳で学習したことと、生活場面でのつながりを積極的に取り上げていく。		
総合	①課題を追究する力やそれをまとめて表現する力の差が大きい。	①情報を取捨選択し、その情報から分かることを自分の言葉で表現させる機会を多く設ける。プレゼンテーションソフトの効果的な使い方についての指導をする。		
ICT 端末の活用	①情報の取捨選択ができない児童が多い。	①日頃から情報の取り扱い方について教え、様々な教科と結び付けて情報を取り扱う学習を行っていく。		